

# 衛生調査書

第十五輯

(實地調査の七)

## 第二疾病篇

(本島人)

臺灣總督府警務局衛生課

昭和十二年刊行

# 衛生調查書

第十五輯

(實地調査の七)

## 第二疾病篇

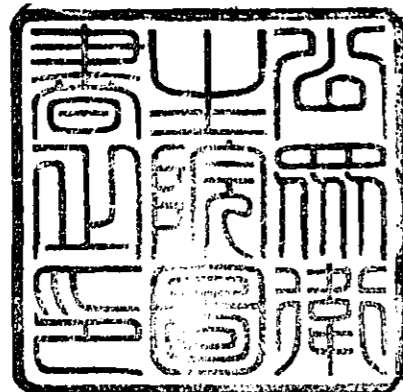
(本島人)

臺灣總督府警務局衛生課

昭和十四年十二月十八日  
臺灣總督府警務局  
寄贈  
公衆衛生院

昭和十二年刊行

P
15
82



は し が き

強國強力の根幹は國民の體位向上にあり、民族體位の向上を  
圖らむとせば、先づ疾病罹患の低下を期すことが最大急務であ  
る。元來疾病は保健的生活と豫防的留意とに依つて、其の大半  
は克服することが能きる。而して疾患は自然的現象に基因す  
る不可避のものに限局減少すべきものである。

本篇は曩に公刊した非健康地區に於ける疾病調査の一部を  
補輯したる外、健康地區の傷病情況の全部をも編整したのであ  
つて、茲に全島の病勢の體系を悉くしたのであるから、保健施設  
の基調として蓋し愆なきを信ずる。

昭和十二年三月

臺灣總督府警務局衛生課長 加藤重喜

## 第二疾病篇 目次

- 第一 總 說.....1
- 第二 調査地及び検査人員.....2
  - 一 性別検査人員.....5
  - 二 年齢別検査人員.....6
- 第三 罹病率.....7
  - 一 全島の観察.....7
  - 二 地方別観察.....7
  - 三 好悪兩地區に於ける比較.....8
  - 四 内地との比較.....9
- 第四 疾 病.....10
  - 一 全島の観察.....10
  - 二 體性別観察.....10
  - 三 地方別観察.....12
  - 四 好悪兩地區に於ける比較.....16
  - 五 官立醫院及び公醫の被診療者との比較.....17
  - 六 内地との比較.....18
- 第五 氣温と疾病.....19
- 第六 年齢と疾病.....26
- 第七 最多疾病.....41
  - 一 寄生蟲病.....41
    - 1 寄生蟲保卵率.....41
    - 2 卵種別寄生蟲.....43
    - 3 年齢別寄生蟲.....44
  - 二 トラホーム.....44
  - 三 脾 臓.....46
  - 四 貧 血.....47
  - 五 甲状腺腫.....48

六 マラリア ..... 48

七 その他の最多疾病 ..... 49

第八 總括 ..... 59

◆

統 計

I. 體性及び年齢別疾病 ..... 2

1 全 島 ..... 2

    健康地 ..... 16

    不健康地 ..... 26

2 臺北州 ..... 38

    健康地 ..... 44

    不健康地 ..... 48

3 新竹州 ..... 54

    健康地 ..... 60

    不健康地 ..... 64

4 臺中州 ..... 70

    健康地 ..... 78

    不健康地 ..... 82

5 臺南州 ..... 90

    健康地 ..... 96

    不健康地 ..... 102

6 高雄州 ..... 108

    健康地 ..... 112

    不健康地 ..... 116

7 臺東廳 ..... 120

    不健康地 ..... 120

8 花蓮港廳 ..... 124

    不健康地 ..... 124

9 澎湖廳 ..... 126

    不健康地 ..... 126

II. 體性及び年齢別寄生蟲病 ..... 132

1 全 島 ..... 132

    健康地 ..... 132

    不健康地 ..... 134

2 臺北州 ..... 134

    健康地 ..... 136

    不健康地 ..... 136

3 新竹州 ..... 138

    健康地 ..... 138

    不健康地 ..... 140

4 臺中州 ..... 140

    健康地 ..... 142

    不健康地 ..... 142

5 臺南州 ..... 144

    健康地 ..... 144

    不健康地 ..... 146

6 高雄州 ..... 146

    健康地 ..... 148

    不健康地 ..... 148

7 臺東廳 ..... 150

    不健康地 ..... 150

8 花蓮港廳 ..... 150

    不健康地 ..... 150

9 澎湖廳 ..... 152

    不健康地 ..... 152

III. 體性及び年齢別トラホーム患者 ..... 153

1 全 島 ..... 153

2 臺北州 ..... 153

3 新竹州 ..... 154

4 臺中州 ..... 154

5 臺南州.....155

6 高雄州.....155

    健康地.....156

1 全 島.....156

2 臺北州.....156

3 新竹州.....157

4 臺中州.....157

5 臺南州.....158

6 高雄州.....158

    不健康地.....159

1 全 島.....159

2 臺北州.....159

3 新竹州.....160

4 臺中州.....160

5 臺南州.....161

6 高雄州.....161

7 臺東廳.....162

8 花蓮港廳.....162

9 澎湖廳.....163

IV. 體性及年齢別有齶齒者.....164

1 全 島.....164

2 臺北州.....164

3 新竹州.....165

4 臺中州.....165

5 臺南州.....166

6 高雄州.....166

    健康地.....167

1 全 島.....167

2 臺北州.....167

3 新竹州.....168

4 臺中州.....168

5 臺南州.....169

6 高雄州.....169

    不健康地.....170

1 全 島.....170

2 臺北州.....170

3 新竹州.....171

4 臺中州.....171

5 臺南州.....172

6 高雄州.....172

7 臺東廳.....173

8 花蓮港廳.....173

9 澎湖廳.....174

保健衛生實地調査報告書第七卷

第二 疾病 篇

第一 總 說

永い間懸案であつた保健問題がいよいよ本格的になつて、國策の軌道に乗つたことは餘りに當然であるほゞ、當然な事實であるが、洵に慶すべきことである。之が實行に就ては、よく慎重審議を悉くし、衛生機構の改革、衛生施設の刷新に當つては、萬遺漏なきを期せなければならない。

保健國策中、喫緊事とするものは、先づ民族衛生の向上、疾病罹患の低下を圖ることが先驅である。今日國家の強弱を測る尺度として、國民の強健、電力の消費量をもつてすることは至言である、かく健康衛生が國家隆昌の根幹である以上は、他に如何なる犠牲をも之を割愛して、専ら國策保健に充てなければならぬ。本島衛生界の總決算とも見るべき最近昭和七年乃至同九年に於ける死亡統計を一瞥するに、病魔のため斃れたるものは無慮九五%の壓倒的大多數を示してゐる、次で天壽を全ふしたる死、即ち老衰は僅かに二六%に過ぎない情勢で、殘餘の二四%は變死(内、自殺〇・九%)に因るものである。かく疾病に因する死亡割合の餘りに高率なるは不可避の事象なるや、そゞろ心膽を寒からしむる次第である。今之を表示するに次表の如くである。

自昭和七年至同九年死因別死亡

死亡原因	三箇年平均		昭和七年		同八年		同九年		
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	
總數	100,933	100.00	99,125	100.00	98,507	100.00	105,166	100.00	
病死	95,567	94.69	93,847	94.67	93,178	94.58	99,674	94.77	
自然死(老衰)	2,647	2.62	2,685	2.71	2,629	2.67	2,627	2.50	
變死	自殺	949	0.94	893	0.90	979	0.99	976	0.93
	他殺其他	1,770	1.75	1,700	1.72	1,721	1.76	1,889	1.80

概ち、罹患率を低下せしむることは直に死亡を激減することが出来る譯で、詳言すれば、死の問題は疾病の検討に外ならぬのである。而かも晩近社會醫學の發達は悪疫の豫防に、或は施設の上に於て絶大の驛價を上げ得たることは周知の事實である、就中猛威を逞ふした急性傳染病に關しては、著しく低減して世の脅威から免かれ得せしめたのであるが、慢性傳染性病、其の他一般疾病に關しては、寧ろ遞増の道程を辿りつゝ、あるは科學の加速度的に發達しつゝ、あるに反するものにして、之が救濟改善には一段の懸命と努力とを拂はねばならぬ。

由來、本島は熱帯雨に恵まれ、従つて生産豊富、人口も亦比年激増を來たして、眞に南國の樂園たるの感なきにあらざれども、一度その質的島民保健特に分量的疾患の分布に就ては寒心に堪へぬ實情を呈露してゐる。

而して疾病阻止には國國一致決東して、之に協力盡瘁し、疾病を未然に豫防すべく最善の手段を講ぜざるべからず。又已に病あるものに對しては、其の全癒に萬全を期せなければならぬ。更に各種疾患を檢討して、其の原因を探り、結果を求め、所謂因果律に相俟つて其の對策を樹立し、一面病勢の地理的撒布度に鑒みて適宜防止施設を布かなければならぬ。

我が保健衛生實地調査に在りて、之の病勢調査に重點を措いたのも、疾病の豫防に施設に資すべきためであつて、要は自然的現象に起因する不可避の疾病のみに限局減少せしめんとする念願である。而かも疾病の大半は衛生的思潮の高調と、細心の留意によつて離脱するこゝが出来るものである。

抑々健康の障礙たる疾病の素因としては體質、體力、體性、年齢の影響あり。又副因として氣象、衣食住、職業、慣習、微生物、其の他の寄生及び環境等の影響に基因するものであるが、本篇は主として健康地、不健康地に區分し、更に地方別に分説して、専ら體性及び年齢兩關係を解説せんとするものである。尙ほ本篇の不健康地中には曩に早急を要したるため、不健康地第一回乃至第五回分を編纂公刊したる疾病篇に、第五回以後の全不健康地の分を合算したる成績である。

## 第二 調査地及び検査人員

保健衛生實地調査は、當初不健康地區の改善に資すべき趣旨の下に、衛生状態の不良部落に施行して來たのであるが、不良地區に於ける衛生諸相は調査の進捗に従つて其の離率を高めるこゝが能きた。即ち不健康地に於ける居住民の體格、衣食住の常態、死亡高率の因由、通風採光と健否との相關々係、地理的影響と疾病の分布、飲料水の適否、其の他衛生に關する迷信、慣習等の實情を把握し得たので、他の不健康地のそれをも類推するに難くないから、昭和三年度に於て不良部落の實査を打切つたのであつた。翌昭和四年度より向後三箇年計畫として保健状態の佳良なる地區に實施するこゝに決し、各州一齊にその歩調を同ふして、各管下に於ける優良地を選定して調査したのであるが、昭和六年度限り本實地調査の終末を告げたのである。而して好悪兩地帯に於ける成績を比照して、健康上に影響する因果的合法則の發見に資し、本調査の使命としたる保健行政向上刷新の基調を確立せむとするものである。

次に各州廳下に於て保健調査を施行したる地名と調査せし人口とを摘記するときは次表の如くである。

調査地別検査人員

州廳及調査回次	施行地	調査着手の時	検査人員			
			總數	男	女	
臺北州	不健康地	1 七星郡士林庄士林	大正 11年 2月 7日	3,125	1,536	1,589
		2 基隆郡金山庄の内	同 12年 2月 6日	2,092	1,087	1,005
		3 文山郡深坑庄深坑	同 13年 3月 9日	1,586	798	788
		4 宜蘭郡礁溪庄の内	同 14年 2月 15日	2,873	1,519	1,354
		5 新莊郡鶯洲庄の内	同 15年 2月 15日	3,190	1,577	1,613
	健康地	6 羅東郡三星庄三星	昭和 2年 2月 10日	2,524	1,235	1,289
		7 新莊郡林口庄の内	同 年 11月 25日	2,834	1,459	1,375
		8 臺北市大龍峒街	同 5年 2月 5日	4,873	2,419	2,454
		9 海山郡樹林庄の内	同 年 10月 22日	5,972	3,064	2,908
		10 七星郡北投庄の内 臺北市東園町西園町	同 6年 10月 20日	5,981 3,349	3,029 1,694	2,952 1,655
新竹州	不健康地	1 新竹郡新竹街の内	大正 11年 3月 15日	2,003	960	1,043
		2 竹南郡南庄字南庄	同 12年 2月 26日	1,122	521	601
		3 中壢郡楊梅庄の内	同 12年 10月 9日	2,404	1,190	1,214
		4 苗栗郡苑裡庄の内	同 13年 10月 1日	2,686	1,305	1,381
		5 竹東郡北埔庄北埔	同 14年 11月 15日	2,346	1,047	1,299
	健康地	6 桃園郡大園庄の内	昭和 2年 1月 15日	1,824	956	868
		7 苗栗郡公館庄の内	同 年 11月 20日	2,757	1,318	1,439
		8 大溪郡大溪街内柵	同 4年 1月 21日	2,735	1,360	1,375
		9 苗栗郡通霄庄の内	同 年 9月 10日	3,192	1,513	1,679
		10 中壢郡新屋庄の内	同 5年 5月 6日	6,513	3,421	3,092
		11 新竹郡香山庄の内 同 舊港庄の内	同 6年 4月 27日	7,480 2,204	3,781 1,117	3,699 1,087
臺中州	不健康地	1 大甲郡沙鹿庄の内	大正 11年 3月 15日	1,934	987	947
		2 北斗郡北斗街の内	同 年 11月 29日	1,391	703	688
		3 大屯郡霧峯庄柳樹浦	同 12年 9月 13日	1,417	749	668
		4 彰化郡芬園庄の内	同 年 11月 8日	3,877	1,944	1,933
		5 大甲郡大安庄の内	同 13年 10月 1日	2,510	1,244	1,266
		6 龍高郡埔里街埔里	同 14年 6月 12日	3,127	1,532	1,595
		7 員林郡埔鹽庄の内	同 15年 11月 25日	2,865	1,420	1,445
		8 竹山郡鹿谷庄の内	昭和 2年 6月 3日	2,480	1,262	1,218
		9 南投郡中寮庄の内	同 3年 6月 10日	2,486	1,303	1,183
	健康地	10 大甲郡大甲街の内	同 4年 7月 15日	4,851	2,439	2,412
		11 豐原郡豐原街豐原	同 5年 10月 15日	7,187	3,572	3,615
		12 員林郡員林街員林	同 6年 9月 22日	6,619	3,500	3,119



州廳及調査回次	施行地	調査着手の時	検査人員			
			總數	男	女	
臺南州	健康地	1 新化郡新市庄の内	大正 10年 10月 15日	5,275	2,708	2,567
		2 新營郡後壁庄の内	同 11年 10月 25日	5,190	2,621	2,569
		北門郡佳里庄佳里	同 12年 1月 27日	3,829	1,908	1,921
		3 嘉義郡中埔庄の内	同 年 9月 3日	2,090	1,119	971
		同 水上庄の内		2,940	1,554	1,386
		4 曾文郡官田庄の内	同 13年 8月 20日	2,381	1,186	1,195
		5 新營郡白河庄の内	同 14年 11月 16日	2,304	1,227	1,077
		東石郡鹿草庄の内		2,661	1,370	1,291
		6 斗六郡大埤庄の内	同 15年 11月 12日	2,504	1,281	1,223
		新豐郡歸仁庄の内		2,441	1,207	1,234
		7 北港郡元長庄元長合和	昭和 2年 11月 26日	2,600	1,368	1,232
8 新化郡玉井庄の内	同 3年 10月 25日	2,780	1,394	1,386		
4 虎尾郡二崙庄の内	大正 13年 10月 20日	3,236	1,590	1,646		
9 新豐郡永寧庄灣裡	昭和 4年 10月 8日	6,265	3,223	3,042		
10 新化郡新市庄新市	同 5年 10月 10日	4,472	2,231	2,241		
11 北門郡佳里庄佳里	同 6年 11月 22日	5,384	2,684	2,700		
高雄州	不健康地	1 高雄郡高雄街三塊厝	大正 11年 3月 12日	2,013	1,046	967
		2 鳳山郡小港庄荊萆脚	同 12年 5月 6日	874	447	427
		3 岡山郡彌陀庄赤崁	同 13年 9月 11日	2,406	1,210	1,196
		4 屏東郡長興庄の内	同 14年 11月 11日	2,270	1,133	1,137
		5 旗山郡旗山街圓潭子	同 15年 8月 5日	1,604	812	792
		6 潮州郡萬巒庄の内	昭和 2年 7月 22日	2,289	1,110	1,179
		7 東港郡新園庄崁頂洲子	同 3年 5月 23日	2,577	1,317	1,260
		8 鳳山郡仁武庄三奶境	同 4年 5月 23日	2,471	1,254	1,217
		9 岡山郡湖内庄園子内海埔	同 5年 4月 25日	7,565	3,751	3,814
		10 東港郡東港街東港	同 6年 10月 1日	10,392	5,360	5,032
臺東廳	不健康地	1 臺東支廳卑南區の内	大正 15年 9月 1日	3,833	1,914	1,919
		里壠支廳里壠區の内				
		2 臺東支廳知本美和村射馬干	昭和 3年 10月 15日	1,824	869	955
3 大武支廳太麻里區	同 5年 6月 1日	2,367	2,140	2,227		
花蓮港廳	不健康地	1 花蓮支廳吉野村平野區	同 2年 8月 15日	3,128	1,519	1,609
		2 同 壽區の内	同 4年 7月 10日	2,261	1,163	1,098
		3 鳳林支廳瑞穗區(奇密を)	同 6年 6月 10日	5,313	2,740	2,573
澎湖廳	不健康地	1 馬公支廳湖西庄の内	同 4年 6月 1日	3,180	1,395	1,785
		2 同 白沙庄の内	同 5年 6月 1日	3,303	1,300	2,003
		3 同 西嶼庄竹篙港	同 6年 5月 10日	4,210	1,740	2,470

更に本島常住人口に對する保健調査を實施した人員の比率を算出するに六〇・五％にして、住民一七人毎に一人を調査したる割合になつてゐる。之を體性別に觀るに男は五九・三％にして女は男より僅に多く六一・七％を示してゐる。之を調査の各年に就て其の比率を求むれば本調査開始の第一年には一五％の低位であるが第二年目より遞増して昭和六年の本調査終了の年には一一・五％の高率となりて本調査期間中に全住民の六一％の大多數を實査したるもので病勢調査としては完璧に庶幾しむべきである。

次に各年調査に於ける常住人口検査人員並に其の比率を表章すべし。

常住人口對検査人員

年	常住人口			検査人員			人口千中検査人員		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
總數	3,944,949	2,014,075	1,930,874	238,691	119,452	119,239	60.51	59.31	61.75
大正 10年	3,548,053	1,821,159	1,726,894	5,275	2,708	2,567	1.49	1.49	1.49
同 11年	3,614,207	1,852,864	1,761,343	15,656	7,853	7,803	4.33	4.24	4.43
同 12年	3,679,371	1,883,715	1,795,656	20,645	10,519	10,126	5.61	5.58	5.64
同 13年	3,742,116	1,913,699	1,828,417	14,805	7,333	7,472	3.96	3.83	4.09
同 14年	3,838,636	1,962,069	1,876,567	15,581	7,828	7,753	4.06	3.99	4.13
昭和 元年	3,923,752	2,002,787	1,920,965	16,487	8,211	8,276	4.20	4.10	4.31
同 2年	4,009,217	2,044,327	1,964,890	20,436	10,227	10,209	5.10	5.00	5.20
同 3年	4,100,262	2,089,408	2,010,854	9,667	4,883	4,784	2.36	2.34	2.38
同 4年	4,198,783	2,137,970	2,060,813	24,955	12,347	12,608	5.94	5.78	6.12
同 5年	4,313,922	2,195,472	2,118,450	44,252	21,898	22,354	10.26	9.97	10.55
同 6年	4,426,122	2,251,354	2,174,768	50,932	25,645	25,287	11.51	11.39	11.63

而して被検査者を體性、年齢に區分し、之を衛生状態の好悪地帯と對比し、其の歸趨の一斑を窺はん乎。

一 性別検査人員

總検査人員は既述の如く二三八、六九一人にして、之を健康地、不健康地別に分つと前者は一〇〇、七四一人即ち總員の四二％を示し、後者は二三七、九五〇人にて五八％の割合である。更に兩性に區分すると男は一一九、四五二人、女一一九、二三九人にして、各性相伯仲してゐる。又之を健否兩地區に細分し兩性の歸趨を見るに健康地男は五一、〇〇二人、女は四九、七三九人を算し、男一〇〇につき女は九七に該つてゐる、之を昭和五年施行の國勢調査に於ける、男女の權衡と比較して見るに、其の比率は全く同軌を呈してゐる、而して不健康地に於ける調査人員は男六八、四五〇人、女六九、五〇〇人なるを以つて、男一〇〇につき女一〇二の比を示して健康地と全く相反する傾向を呈してゐる。

蓋し、不健康地の生活環境より男は餘儀なく他地方に出役する者多きは想像に難からぬことである。かつ女多地方は主として東海岸二廳と澎湖廳であつて、就中後者の女多地區なるは人口の密度高く、加之ならず殖産工業の幼稚なるため、専ら男は對岸本島南部地方に出稼ぎするに基因してゐる。

二 年齢別検査人員

年齢別人口の重要なことは茲に喩々を要せざるころであるが、少しく略叙して見たい。年齢の構成は直に過去の歴史を物語るものである。即ち幼兒級を底部として順次に其の年齢を積み上げ、頂部は最老年級とするときは二等邊三角形となる。若し其の型體に起伏あらんか、それは或る傳染性病の流行、戦役等國家の不祥を説明するものである。其の他年齢別人口の貴重なる所以は兵役年齢に、學齡を見る上に、議員の投票資格、婚姻の多少、地理的原因等を闡明する上に必須なるのみにあらずして、生産年齢、不生産年齢として國家の人的内容を觀察するに缺く可からざる表示である。

今、調査地に於ける年齢構成は定型を呈示してゐるが、健康地、不健康地として之を對照するに生後十五歳迄の第一不生産年齢は健區にありては四二・四%に對し、不健區は三九・八%の低率である。生産年齢は健區の五三・四%に對し、不健區は稍々高く五六%を示し、第二不生産年齢にありては兩區間に逕庭なし。之を要するに不健區の生産年齢の高きは幼兒級に低き相對的現象である、就中三〇—三四歳級と、五五—五九歳級は健區の勝れたるを知る。

次に年齢別検査人員の詳細を表章すべし。

検査人員(實數)

年齢(歳)	總數	健康地	不健康地	年齢(歳)	總數	健康地	不健康地
總數.....	238,691	100,741	137,950	50—54.....	9,089	3,673	5,416
0—4.....	38,200	17,335	20,865	55—59.....	6,544	2,939	3,605
5—9.....	31,544	13,908	17,636	60—64.....	4,436	1,970	2,466
10—14.....	27,852	11,510	16,342	65—69.....	2,816	1,145	1,671
15—19.....	23,484	9,767	13,717	70—74.....	1,675	695	980
20—24.....	20,711	8,702	12,009	75—79.....	757	266	491
25—29.....	17,416	7,302	10,114	80—84.....	257	96	161
30—34.....	15,506	6,737	8,769	85—89.....	82	23	59
35—39.....	13,850	5,378	8,472	90—94.....	5	2	3
40—44.....	12,668	4,690	7,978	95—.....	4	2	2
45—49.....	11,795	4,601	7,194				

検査人員(百分比)

年齢	總數	健康地	不健康地	年齢	總數	健康地	不健康地
總數.....	100.00	100.00	100.00	45—49.....	4.94	4.57	5.21
0—4.....	16.00	17.18	15.13	50—54.....	3.81	3.65	3.93
5—9.....	13.21	13.80	12.78	55—59.....	2.74	2.92	2.61
10—14.....	11.67	11.43	11.85	60—64.....	1.86	1.96	1.79
15—19.....	9.84	9.70	9.94	65—69.....	1.18	1.14	1.21
20—24.....	8.68	8.64	8.71	70—74.....	0.70	0.69	0.71
25—29.....	7.30	7.25	7.33	75—79.....	0.32	0.26	0.36
30—34.....	6.50	6.69	6.36	80—84.....	0.11	0.10	0.12
35—39.....	5.80	5.34	6.14	85—89.....	0.03	0.02	0.04
40—44.....	5.31	4.66	5.78	90—.....	0.00	0.00	0.00

第三 罹病率

一 全島の觀察

本調査に於て診断發見した傷病者絶對數は無慮三七〇、九〇八を算する多數にして、之を被検査者二三八、六九一人に對比するときは各人一五五の罹病率に當る、即ち島民二人毎に平均三病強の疾患に悩まされてゐる懼るべき割合を呈してゐるのである。更に兩性に區分して各人當りを觀察するに男は一五八、女は男より僅に低く一五三を示し、性に依る影響としては甚だ微弱である。

二 地方別觀察

傷病分布の状態を地方別に之を觀るに、全島罹病率(一五五)より高きは臺中州二〇七を示して首位を占め、亞て臺東廳(一九六)及び臺南州(一七六)の順位である。之に反し全島罹病率より低き地方は臺北州の〇九三を最少とし、亞いて花蓮港廳(一二一)、高雄州(一三五)及び澎湖廳(一四一)の順位であつて、新竹州(一五三)は全島平均値に最も近い。而して地方別罹病率の最高臺中州と、最低臺北州との兩極較差は一一四の著差を示してゐる、即ち臺中州に於ける疾患者は臺北州に倍加してゐる状態である。

男女に依る罹患の状態は、全島平均と同軌を呈するは各州孰れも同調にして男を高率とすれども、又三廳は期せずして各州と其の趣を異にし女を高位としてゐる。而して體性に依る罹患差率の全島平均(〇〇五)に軒輊なきは高雄州(〇〇四)にして、臺南州(〇〇五)は全く同率を示し、臺中州は其の差率〇二を示して全島平均の四倍に上つてゐる。臺北州は男女間逕庭なく同位を呈してゐる。又女を多率とする臺東廳の率差は〇二三の最高位を示し、花蓮港廳も亦〇一五の著差を呈してゐる。蓋し男性の罹患率高きは一般死亡率男の高きに徴しても首肯せらる、事實である、即ち最近三箇年間に於け

る本島人女一〇〇に對する男の死亡は一一三を示してゐる。今之を表章する三次表の通りである。

最近三箇年間に於ける本島人死亡率(人口千につき)

年	總 數	男	女	女百に付男
昭和九年.....	21.1	22.1	20.2	113.4
同 八年.....	20.3	21.3	19.4	113.6
同 七年.....	21.0	21.9	20.1	113.0

三 好惡兩地區に於ける比較

保健状態の良否地區に依りて又疾病分布に影響あることは自明の理である。先づ健康地の罹病比率を観察するに全島平均値(一五五)より〇〇五低く一五を示してゐる。而して不健康地は全島平均より〇〇四の高率を占めてゐるが、兩地區の較差としては〇〇九に昇つて來る譯である。更に兩地區對男女の歸向を見るに、前者は〇〇八、後者は〇一不健康地が高率である。

之を地方別に細査して見るに異つた事情が窺はれる。即ち健康地か當然罹病者か寡少なりを謂ふ結論に到達するは臺北臺中及び高雄の三州で之に反し健康地に却つて罹病多しとするは新竹及び臺南の兩州である。曩に公刊した本島人の體格篇に據れば健康地居住者の身長、體重及び胸圍等那邊より之を観測するも、不健康地在住者より適に優秀なるを知悉したるに、疾病關係に在つては如上の例外を現出したるは更に検討を要する一事である。而して當初本調査は不健康地部落に先鞭を附け、其の後健康地區調査を結了したる其の間を回顧するに十年の星霜を關した關係上、この期間に於ける衛生事象の改善進歩は、延いて人體にも好影響こそすれ、醫へ疾病たりとも激減すべき理なるに反對なる奇現象を表はしたるはいぶかしき次第を謂ふべきである。これ或は調査回次の進捗に伴れ調査方法の習練に基因するものならん乎。

健康兩地區の比較は各州に限り之を行ひ、他の三廳は總て不健康地を見做したので、之を省略するの已むなき事情に措いた。

地方別罹病率の詳細を表章する三次表の如くである。

地方別罹病率(一人當罹病數)

種 別	總 數			健 康 地			不 健 康 地		
	總 數	男	女	總 數	男	女	總 數	男	女
檢 査 人 員	238,691	119,452	119,239	100,741	51,002	49,739	137,950	68,450	69,500
疾 病 總 數	370,908	188,594	182,314	151,420	78,128	73,292	219,488	110,466	109,022
罹 病 率 (一人當罹病)	1.55	1.58	1.53	1.50	1.53	1.47	1.59	1.61	1.57

種 別	總 數			健 康 地			不 健 康 地			
	總 數	男	女	總 數	男	女	總 數	男	女	
臺北州	檢 査 人 員	38,399	19,417	18,982	20,175	10,206	9,969	18,224	9,211	9,013
	疾 病 總 數	35,821	18,074	17,747	17,249	8,538	8,711	18,572	9,536	9,036
新竹州	檢 査 人 員	37,266	18,489	18,777	22,124	11,192	10,932	15,142	7,297	7,845
	疾 病 總 數	57,084	29,139	27,945	36,727	19,202	17,525	20,357	9,937	10,420
臺中州	檢 査 人 員	40,744	20,655	20,089	18,657	9,511	9,146	22,087	11,144	10,943
	疾 病 總 數	84,532	44,874	39,658	34,854	18,375	16,479	49,678	26,499	23,179
臺南州	檢 査 人 員	56,402	28,671	27,731	19,357	9,728	9,629	37,045	18,943	18,102
	疾 病 總 數	99,405	51,254	48,151	36,365	18,566	17,799	63,040	32,688	30,352
高雄州	檢 査 人 員	34,461	17,440	17,021	20,428	10,365	10,063	14,033	7,075	6,958
	疾 病 總 數	46,414	23,827	22,587	26,225	13,447	12,778	20,189	10,380	9,809
臺東廳	檢 査 人 員	10,024	4,923	5,101	...	...	...	10,024	4,923	5,101
	疾 病 總 數	19,623	9,071	10,552	...	...	...	19,623	9,071	10,552
花蓮港廳	檢 査 人 員	10,702	5,422	5,280	...	...	...	10,702	5,422	5,280
	疾 病 總 數	12,993	6,207	6,786	...	...	...	12,993	6,207	6,786
澎湖廳	檢 査 人 員	10,693	4,435	6,258	...	...	...	10,693	4,435	6,258
	疾 病 總 數	15,036	6,148	8,888	...	...	...	15,036	6,148	8,888

四 内地との比較

疾病關係は民族的に或は地理的環境、又は生活態様に甚大の差異を認むるものであるから、之を直に内地農民に比して其の動向を究むるは妥當でないが、姑く之を比照して島民罹病事情を内地に比し多寡如何なる程度にある歟を考察せんとするものである。而して内地に於ける成績は大正十年度以降道府縣に於て調査した七十八箇農村住民疾患の總和である。

内地農村住民の罹病率は島民のそれより〇・四一低く内地罹病率は一人當平均一・一四であつて遺憾ながら本島が多病である。而して内地農村男女別比率を見るに女は全國平均値と同軌を呈し、男は一一三を示してゐる。島民の男を高率にするに對し、内地農村に於ては相反して女を多數にしてゐる。

### 第四 疾 病

本調査に係る疾病名は、實に多種多様であつて、異名同病あり、甚だしきは病名を以て背し難きもの等あつたが、これ等は其の儘に存置して總て大正十三年内閣訓令に據る、死因及び疾病分類に迎合すべく之を編整した。

#### 一 全島の觀察

如何なる病氣が島民間に分布せられてゐるか、その大勢を大摺みに觀察して見やう、勿論疾病の大分類に據つたもので、今其の實數と比率(人口千につき)とを甄別して見る。

疾病大分類

疾 病	絶 對 數	罹 患 率(人口千につき)
1 流行病、地方病及傳染病	5,885	24.7
2 全 身 病	48,282	202.3
3 神経系及感覺器病	92,110	386.0
4 血 行 器 病	1,083	4.5
5 呼 吸 器 病	6,027	25.3
6 消 化 器 病	208,329	873.1
7 泌尿、生殖器病	109	0.5
8 皮膚及皮下組織病	8,686	36.4
9 骨及運動器病	145	0.6
10 畸 形	91	0.4
11 幼 兒	11	0.0
12 老 年	81	0.3
13 外 傷	69	0.3

上表に掲げたやうに、消化器病が最多で、總島民の約九割を蝕んでゐる。之に亞で神経系並に感覺器病も、もの凄く約四割を侵してゐる、又全身病に依るものも相當に跋扈して二割強の島民を冒してゐて、以上三疾患が本島の庶民病である。皮膚病、呼吸器病及び傳染病等が三〇%内外の病勢であつて、其の他の疾病は極めて少數である。而して消化器疾患の過多なるは寄生蟲病の影響する所である。神経感覺器病の多數なるは野蠻病を稱せらるゝトラホームの流行に因るもので、又全身病の豫想外に猖獗してゐるのは脾臟肥大症の占むるためである、これは反而觀しては從來臺灣を謂へば直に聯想したるマラリアの過去を物語るものである。又呼吸器及び泌尿生殖器病等の寡少なるは、多くは外部に露れたる症候なきによつて單に問診したる結果に外ならぬからである。

#### 二 體性別觀察

疾病分布の状態を體性別に之を觀察する時は、男患一八八、五九四にして女患は男患

に比し六、二八〇寡少で一八二、三一四を算してゐる。この總和三七〇、九〇八を一、〇〇〇として男女兩患の比率を求むると男は五〇・八五女は四九・一五の割合を呈する。而して男女の比率としては男高率なるも、之を疾病より觀ると血行器病、消化器病、泌尿生殖器病及び老弱は女を多數にしてゐる、外傷は兩性同位を保つてゐる。之を健否兩地域別に考察すると健康地に在りては平均値と同軌を示すものは泌尿生殖器と老弱の二類に過ぎない、血行器病は同位であつて平均のやうに女多でない。更に不健康地に眼を轉ずると平均値に於て女を高率とする各種疾病は孰れも同軌を呈する外、尙ほ神経系感覺器病も男を凌駕してゐる、且つ外傷も平均値と同じく同位である。

次に體性別に依る健康地、不健康地別疾患の詳細を表章する。次表の通りである。

體性別疾患 (實數)

病 類	總 數			健 康 地			不 健 康 地		
	總 數	男	女	總 數	男	女	總 數	男	女
總 數	370,908	188,594	182,314	151,420	78,128	73,292	219,488	110,466	109,022
1 流行病、地方病及傳染病	5,885	3,296	2,589	989	516	473	4,896	2,780	2,116
2 全 身 病	48,282	25,309	22,973	10,881	5,628	5,253	37,401	19,681	17,720
3 神経系及感覺器の疾患	92,110	46,454	45,656	37,631	19,498	18,133	54,479	26,956	27,523
4 血 行 器 病	1,083	442	641	187	96	91	896	346	550
5 呼 吸 器 病	6,027	3,244	2,783	2,491	1,416	1,075	3,536	1,828	1,708
6 消 化 器 病	208,329	102,957	105,372	94,966	47,696	47,270	113,363	55,261	58,102
7 泌尿、生殖器病	109	33	76	21	6	15	88	27	61
8 皮膚及皮下組織の疾患	8,686	6,650	2,036	4,047	3,160	887	4,639	3,490	1,149
9 骨及運動器の疾患	145	95	50	46	30	16	99	65	34
10 畸 形	91	65	26	69	50	19	22	15	7
11 幼 兒	11	7	4	10	7	3	1	...	1
12 老 年	81	10	71	54	9	45	27	1	26
13 外 傷	69	32	37	28	16	12	41	16	25

體性別疾患 (千分比)

病 類	總 數			健 康 地			不 健 康 地		
	總 數	男	女	總 數	男	女	總 數	男	女
總 數	1,000.0	508.5	491.5	1,000.0	516.0	484.0	1,000.0	503.3	496.7
1 流行性地方病及傳染病	15.7	8.9	7.0	6.5	4.4	3.1	22.3	12.7	9.6
2 全 身 病	130.2	68.2	61.9	71.9	37.2	34.7	170.4	89.7	80.7
3 神経系及感覺器病	248.4	125.2	123.1	248.5	128.8	119.8	248.2	122.8	125.4
4 血 行 器 病	2.9	1.2	1.7	1.2	0.6	0.6	4.1	1.6	2.5
5 呼 吸 器 病	16.2	8.7	7.5	16.5	9.4	7.1	16.1	8.3	7.8

病 類	總 數			健 康 地			不 健 康 地		
	總 數	男	女	總 數	男	女	總 數	男	女
6 消 化 器 病	561.9	277.7	284.1	627.1	315.0	312.1	516.5	251.7	264.8
7 泌 尿、生 殖 器 病	0.3	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.4	0.1	0.3
8 皮 膚 及 皮 下 組 織 病	23.4	17.9	5.5	26.7	20.9	5.9	21.1	15.9	5.2
9 骨 及 運 動 器 病	0.4	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1	0.5	0.3	0.2
10 畸 形	0.2	0.2	0.1	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
11 幼 兒	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	...	0.0
12 老 年	0.2	0.0	0.2	0.4	0.1	0.3	0.1	0.0	0.1
13 外 傷	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1

三 地方別觀察

全島平均一人當り罹患率は一・五病を示してゐることは既述の通りであるが、之を地方別に觀察するときは各地方色を現出して來る。而して臺中州は全島中首位を占むる高率であつて、一人當り二・一病に罹つてゐる不良状態である。次に臺東廳は每人約二病(一九六)の罹患状況にして臺中州に匹敵する病勢である。第三位に多率なるは臺南州にして一・七六を示してゐて、前記の二州一廳は全島平均値(一・六)以上を占據してゐる。但し本病勢調査は擔任調査醫が眞摯的態度をもつて詳細に各人に對し打診したる場合、之に反する場合に依つて至大の影響あることは考慮を要する一事である。

並いて病度の寡少なるは臺北州にして一人當り〇・九病、即ち人口千に付九三・二八病に該つてゐて、最多臺中州の約半に達せざる好勢である。並いて花蓮港廳の一人每一・二病、高雄州の一・三病等順次之に次いでゐる。而して新竹州は一・五病にして、全島平均値と伯仲してゐる。

次に疾病と地方の關係を觀察するに、消化器病、神經感覺器病の二種は各州廳孰れも寄生蟲病、トラホームの夥多なる結果、その首位、次位にあるをもつて之を除外し、第三位にあるもの以下に就いて地方別特色を摘記せむに

1 全島平均第三位は全身病なれども、新竹州は皮膚病に並て第四位に墜ち、澎湖廳は更に低下して第六位の少数に過ぎない。元來全身病は脾腫の反映なれば、如上一州一廳にマラリアの流行寡きを如實に示したるものも謂ふべきである。

2 呼吸器病(二・五三%)と傳染病(二・四七%)とは全島平均値に在りては相伯仲するにも不拘臺北、新竹の兩州と臺東、澎湖の兩廳は孰れも傳染病患は呼吸器患者の半數に達せざる情况である。然るに臺南州傳染病數は呼吸器病の約七倍の多數、又花蓮港廳も同上割合約二倍を呈して、其の階趨に著しき特色がある。

3 血行器疾患は各地一%内外の比率に過ぎない少數なるに反し、臺中州は一・六%、高雄州は八%の多率を示してゐる。

4 神經系疾患は南部地方に多く、北中部に低率である、四〇%以上を占むる地方を順位に列記するに臺南州(五五%)、臺東廳(四七%)、澎湖廳(四一%)、高雄州(四〇%)等である。

5 呼吸器病は臺中州(八%)及び臺東廳(七%)高率にして、澎湖廳、新竹州、臺北州順次之に並ぎ、既して中北部並に臺東廳に多し。

6 泌尿生殖器病は臺東廳に多く、全島平均の約六倍に當つてゐる。

地方別に依る疾病分布の情況を表章するに、次表の如くである。

地方別疾病 (實數)

檢 査 人 員 及 病 類	全 島	臺 北 州	新 竹 州	臺 中 州	臺 南 州	高 雄 州	臺 東 廳	花 蓮 港 廳	澎 湖 廳
檢 査 人 員	238,691	38,399	37,266	40,744	56,402	34,461	10,024	10,702	10,693
總 數	370,908	35,821	57,084	84,532	99,405	46,414	19,623	12,993	15,036
流 行 病 及 傳 染 病	5,885	217	276	2,104	2,473	317	363	53	82
全 身 病	48,282	1,286	2,329	21,581	11,562	3,518	4,326	3,648	32
神 經 系 及 感 覺 器 病	92,110	10,296	12,310	13,901	31,171	13,929	4,723	1,445	4,335
血 行 器 病	1,083	37	59	645	30	277	11	2	22
呼 吸 器 病	6,027	497	545	3,277	354	407	709	31	207
消 化 器 病	208,329	22,442	38,738	40,191	52,916	27,298	8,839	7,812	10,093
泌 尿 生 殖 器 病	109	11	11	35	12	8	28	1	3
皮 膚 及 皮 下 組 織 病	8,686	988	2,682	2,700	837	652	619	...	208
骨 及 運 動 器 病	145	11	42	21	38	8	5	...	20
畸 形	91	34	42	3	11	...	...	1	...
幼 兒	11	1	10	...	...	...	...	...	...
老 年	81	...	1	53	...	...	...	...	27
外 傷	69	1	39	21	1	...	...	...	7

地方別罹病率 (人口千につき)

病 類	全 島	臺 北 州	新 竹 州	臺 中 州	臺 南 州	高 雄 州	臺 東 廳	花 蓮 港 廳	澎 湖 廳
總 數	1,554.4	932.9	1,531.8	2,074.7	1,762.4	1,346.9	1,957.6	1,214.1	1,406.2
流 行 病 地 方 病 傳 染 病	24.7	5.7	7.4	51.6	43.8	9.2	36.2	4.9	7.7
全 身 病	202.3	33.5	62.5	529.7	205.0	102.2	431.6	340.9	3.0
神 經 系 及 感 覺 器 病	386.0	268.2	330.3	341.2	552.7	404.2	471.2	135.0	405.4
血 行 器 病	4.5	1.0	1.6	15.8	0.5	8.0	1.1	0.2	2.0
呼 吸 器 病	25.3	12.9	14.6	80.4	6.3	11.8	70.7	2.9	19.4
消 化 器 病	873.1	58.4	1,039.5	986.4	938.2	792.2	881.8	730.0	943.9
泌 尿 生 殖 器 病	0.5	0.3	0.3	0.9	0.2	0.2	2.8	0.1	0.3
皮 膚 及 皮 下 組 織 病	36.4	25.7	72.0	66.3	14.8	18.9	61.7	...	19.4
骨 及 運 動 器 病	0.6	0.3	1.1	0.5	0.7	0.2	0.5	...	1.9
其 の 他	1.0	0.9	2.5	1.9	0.2	...	...	0.1	3.2

更に兩性に依る地方別罹病狀勢を窺ふに、各性一人當り男は一五七九、女は一五二九を示して、甚だ極少限の差異であることは第三罹病率にて敍べた通りであるが、今茲には性差疾病に關して再考して見たい。

かく、全島平均値としては男を多數とするに反し、之を地方別に見るときは臺北州並に臺東、花蓮港、澎湖の各三廳は女性をもつて多數を占めてゐる。就中臺東廳の女を多數とするときは〇・二二六である。

體性に依る地方別疾病の歸嚮には各々特異の傾向が認められるから、之を疾病別に略述するに次の如くである。

1 流行病、地方病及び傳染病 本病は男多の疾患であるが臺南州と花蓮港廳とに在りては女性を多數を占めてゐる。

2 全身病 性に依る影響は、全島としては甚だ微弱であるが臺北州は男に對し女は約三倍の多數を示して六對一七の比をなしてゐる。之に反し澎湖廳は女に多數を示して二對一である。

3 神経系及び感覺器病 全身病と同軌にて男僅かに高率なるに反し新竹州並に臺東、澎湖の兩廳に在りては女多の傾向あり、就中臺東廳女の割合著しく高し。

4 血行器病 本病は女を多數とする全島平均値に反する地方は臺北、新竹の北部二州と臺南州及び花蓮港廳である。而して本病罹患者の高率なるは臺中州にして、花蓮港廳最も低し。

5 呼吸器病 本病は男に罹患者多く、唯臺東廳のみ例外にして之に反してゐる。元來臺東廳に在りては流行病傳染病を除けば總て女の罹患者は男のそれを凌駕してゐる。

6 消化器病 寄生蟲病の影響にて、本病は總疾患の首位を占め、就中新竹州は男女俱に一〇〇%を突破するの多數を示し、甚少なるは臺北州なれども約半を超過して五八%に達してゐる。而して男を多數とする地方は臺中州のみにて、其の他の州廳は平均値と同じく女の罹患者多數なり。

7 泌尿生殖器病 病質的に女性に多く、特に臺中州少しく現はる。

8 皮膚及び皮下組織病 本病は不潔に基因すれども、又民族的に入浴を厭ふは一層分布を繁からしむるものである。而して罹病率は男五七%、女一七%を示して男は女に比し三倍強の多數に該る。平均値より高き地方は、男に在りては新竹、臺中の兩州及び臺東廳であつて、女に在りては臺北、新竹、臺中の三州と臺東廳なりとす、尚ほ花蓮港廳にては本病の調査を缺く。

其の詳細を表章するときは、次表の如くである。

體性別疾病 (實數)

種 別	全 島	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳
檢 査 人 員	119,452	19,417	18,489	20,655	28,671	17,440	4,923	5,422	4,435
總 數	188,594	18,074	29,139	44,874	51,254	23,827	9,071	6,207	6,148
流行病及傳染病	3,296	121	168	1,270	1,248	188	232	26	43
全身病	25,309	349	1,060	11,508	6,849	2,196	1,789	1,539	19
神經系及感覺器病	46,454	5,384	6,072	7,327	16,023	7,126	2,031	786	1,705
血行器病	442	24	34	305	19	49	3	2	6
呼吸器病	3,244	281	301	1,796	203	210	329	19	105
消化器病	102,957	11,228	19,171	20,528	26,243	13,597	4,232	3,834	4,124
泌尿、生殖器病	33	4	6	15	2	5	...	...	1
皮膚及皮下組織病	6,650	648	2,240	2,101	634	452	454	...	121
骨及運動器病	95	8	31	9	24	4	1	...	18
畸形	65	27	28	1	8	...	...	1	...
幼年	7	...	7	...	...	...	...	...	...
老年	10	...	...	9	...	...	...	...	1
外傷	32	...	21	5	1	...	...	...	5
檢 査 人 員	119,239	18,982	18,777	20,089	27,731	17,021	5,101	5,280	6,258
總 數	182,314	17,747	27,945	39,658	48,151	22,587	10,552	6,786	8,888
流行病及傳染病	2,589	96	108	834	1,225	129	131	27	39
全身病	22,973	937	1,269	10,073	4,713	1,322	2,537	2,109	13
神經系及感覺器病	45,656	4,912	6,238	6,574	15,148	6,803	2,692	659	2,630
血行器病	641	13	25	340	11	228	8	...	16
呼吸器病	2,783	216	244	1,481	151	197	380	12	102
消化器病	105,372	11,214	19,567	19,663	26,673	13,701	4,607	3,978	5,969
泌尿、生殖器病	76	7	5	20	10	3	28	1	2
皮膚及皮下組織病	2,036	340	442	599	203	200	165	...	87
骨及運動器病	50	3	11	12	14	4	4	...	2
畸形	26	7	14	2	3	...	...	...	...
幼年	4	1	3	...	...	...	...	...	...
老年	71	...	1	44	...	...	...	...	26
外傷	37	1	18	16	...	...	...	...	2

體性別疾病 (人口千に付)



病名及體性	全島	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳	
總數	男	1,578.8	930.8	1,576.0	2,172.5	1,787.7	1,366.2	1,842.6	1,144.8	1,386.2
	女	1,529.0	934.9	1,488.3	1,974.1	1,736.4	1,327.0	2,068.6	1,285.2	1,420.3
流行病及傳染病	男	27.6	6.2	9.1	61.5	43.5	10.8	47.1	4.8	9.7
	女	21.7	5.1	5.8	41.5	44.2	7.6	25.7	5.1	6.2
全身病	男	211.9	18.0	57.3	557.2	238.9	125.9	363.4	283.8	4.3
	女	192.7	49.4	67.6	501.4	170.0	77.7	497.4	399.4	2.1
神經系及感覺器病	男	388.9	277.3	328.4	354.7	558.9	408.6	412.6	145.0	384.4
	女	382.9	258.9	332.2	327.2	546.2	399.7	527.7	124.8	420.3
血行器病	男	3.7	1.2	1.8	14.8	0.7	2.8	0.6	0.4	1.4
	女	5.4	0.7	1.3	16.9	0.4	13.4	1.6	...	2.6
呼吸器病	男	27.2	14.5	16.3	87.0	7.1	12.0	66.8	3.5	23.7
	女	23.3	11.4	13.0	73.7	5.4	11.6	74.5	2.3	16.3
消化器病	男	861.9	578.3	1,036.9	993.9	915.3	779.6	859.6	707.1	929.9
	女	883.7	590.8	1,042.1	978.8	961.8	804.9	903.2	753.4	953.8
泌尿、生殖器病	男	0.3	0.2	0.3	0.7	0.1	0.3	...	...	0.2
	女	0.6	0.4	0.3	1.0	0.4	0.2	5.5	0.2	0.3
皮膚及皮下組織病	男	55.7	33.4	121.2	101.7	22.1	25.9	92.2	...	27.3
	女	17.1	17.9	23.5	29.8	7.3	11.8	32.3	...	13.9
骨及運動器病	男	0.8	0.4	1.7	0.4	0.8	0.2	0.2	...	4.1
	女	0.4	0.2	0.6	0.6	0.5	0.2	0.8	...	0.3
畸	男	0.5	1.4	1.5	0.0	0.3	...	...	0.2	...
	女	0.2	0.4	0.7	0.1	0.1	...	...	...	...
幼	男	0.1	...	0.4	...	...	...	...	...	...
	女	0.0	0.1	0.2	...	...	...	...	...	...
老	男	0.1	...	...	0.4	...	...	...	...	0.2
	女	0.6	...	0.1	2.2	...	...	...	...	4.2
外	男	0.3	...	1.1	0.2	0.0	...	...	...	1.1
	女	0.3	0.1	1.0	0.8	...	...	...	...	0.3

四 好惡兩地區に於ける比較

衛生状態の良好なる地區と、不良なる地區とを比較して見るに、其の疾患名が居住地帯の良否に従つて断然支配されてゐることが分かる。即ち病名に依る最多罹患者を觀るに首位及び次位にある寄生蟲病、トラホームは好惡兩地孰れも同位にして其の比率に在りても大差なく双璧を爲せども、第三位に在りては健康地は貧血を壓すに對し不健康地は脾腫を押してゐる、而かも其の比率は健區の四八%に對し不健區は一七%の高率を示してゐる。第四位は兩地區第三位の最多疾病を交互に轉換してゐるか、健區の比率は一四%の低率である。第五、六位は健區白癩、甲状腺腫とするに對し、不健

區は甲状腺腫、マラリアの順位である。第七位は兩地域孰れも氣管支炎にて比率に在つても逡巡なし。而して健區に於けるマラリアは第一位にして四・五%の低率に過ぎない。之を要するに健區に在つては寄生蟲又はマラリアに因る貧血と皮膚疾患多く、不健區はマラリア又はマラリア系の外、甲状腺腫多し。

本兩地區に於ける相違は更に第七最多疾病にて再説せむとす。

五 官立醫院及び公醫の被診療者との比較

官立醫院及び公醫の診療に依る疾病統計と對比して病勢の推移を考察して見やう。而して官立醫院のものは大體に於て都邑疾病であつて、本調査の健康地に比すべきものである。又公醫の大部分は醫療機關の充實せざる地域に配置される關係上、大體に農山漁村の疾病であるから、これは當然不健康地に對するものとも見るこゝが能きる。尙ほ兩診療所に於ける診療成績は昭和六年乃至同八年の平均値である。

本調査に於ける最多疾病は寄生蟲病に因りて消化器系疾患なるも、之を官立醫院及び公醫のそれと比較するに兩診療所も第二位を呈し、前者は總患の一割六分後者に依るものは前者より一割強の高率にて二割七分に騰つてゐる、この事實は村落にては寄生蟲が蔓延してゐるこゝが想像に難からざるこゝを物語つてゐる、本調査に公醫に依る本疾患の公醫側に比較的低位であるのは、島民の多くは寄生蟲は驅除せざる慣習あるの外、本病の輕微なものは寧ろ疾病と見做さざる方が却つて妥當のやうな状態のものもある、つまり檢鏡の結果に因り蟲卵を検出する程度のもので、從て當面の保卵者は別段に痛痒もなく、勿論疾病とも考へてゐないものでも、本調査に在りては總て檢鏡に俟つて其の絕對數を測定したので比較的多數なるこゝは否まれない。而して兩診療所側の第一位を見るに官立醫院に在りては本調査の第二位とする神經感覺器病で二割強の高率を示し、その病名より見ても本調査と全く吻合してトラホーム及び其の他の眼疾に依るものを合するときは、神經感覺器病中の約七割(神經系及び感覺器病總數七、九五二、内トラホーム二、四八八、其の他の眼疾二、九四六、比率六八・三%)を占めてゐる、更に公醫の診療に依る第一位は流行病、地方病及び傳染病で二割八分を占めてゐる。かく本病が首位を示さば農山漁村等の環境からマラリアが主因である、即ち總流行病、地方病及び傳染病一、四八、四八三中マラリア患者は七二、七〇四を示して四九%に上つてゐる。

第二位にあるは本調査に在つては神經系及び感覺器病に對し官立醫院及び公醫の總和に在つては既述の通り公醫に依る診療寡少のため第四位である。

第三位に多數なるは本調査に在つては脾腫の影響を孕け全身病なれども、本病は醫療を講ふもの少き結果、兩診療所は孰れも呼吸器病をもつて第三位にしてゐる。而して官立醫院に在つては急性氣管支炎並に肺炎多數を占め總患の一割六分弱にして、第

二位の消化器を巡庭なし。又公醫にありては急慢性気管支炎多数のため二割三分を示してゐる。

本調査は皮膚及び皮下組織病を第四位とするに對し、官立醫院は第六位、公醫は第五位となつてゐる。而して官立醫院の四位に多数なるは泌尿、生殖器病であつて、腎臟炎最多を占めてゐる、公醫の三位は神経系及び感覺器病でトラホーム及び其の他の眼疾が多数である。

本調査第五位呼吸器病は、兩診療所孰れも第三位なることは既述の如くである。而して官立醫院の五位は流行病、地方病及傳染病で、主として結核を流行性感胃の影響である、公醫の五位は癩及び下腿潰瘍に基因してゐる。

第六位は官立醫院にては皮膚及び皮下組織病(九%)を、公醫にては外傷(三%)をもつて、本調査の流行病、地方病及び傳染病にあるもの莫し。

その詳細を表章するに次表の如くである。

官立醫院及び公醫の診療人員との比較

病名	實 數				千 分 比			
	本調査	總數	官立醫院	公醫	本調査	總數	官立醫院	公醫
總患者	370,908	572,596	38,911	533,885	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
流行病、地方病及傳染病	5,885	152,921	4,438	148,483	15.87	266.97	114.05	278.12
全身病	48,282	9,347	1,414	7,933	130.17	16.32	36.34	14.86
神経系及感覺器病	92,110	63,543	7,952	55,591	248.34	110.93	204.36	104.12
血行器病	1,083	4,876	412	4,464	2.92	8.51	10.59	8.36
呼吸器病	6,027	130,029	6,130	123,899	16.25	227.01	157.54	232.07
消化器病	208,329	148,339	6,253	142,086	561.67	258.97	160.70	266.14
泌尿、生殖器病	109	16,451	5,685	10,766	0.29	28.72	146.10	20.16
皮膚及皮下組織病	8,686	20,066	3,610	16,456	23.42	35.03	92.78	30.82
骨及運動器病	145	4,174	903	3,271	0.39	7.29	23.21	6.13
畸形	91	113	40	73	0.25	0.20	1.03	0.14
幼児	11	1,899	80	1,819	0.03	3.32	2.05	3.41
老年	81	...	...	...	0.21	...	...	...
外傷	69	16,642	1,340	15,302	0.19	29.05	34.44	28.66
不明の診断	...	4,396	654	3,742	...	7.68	16.81	7.01

六 内地との比較

本調査成績を内地農村保健調査のそれと比較して見るに、寄生蟲の過多なるため第一位にある消化器系を、トラホームの影響にて第二位を示す神経系及び感覺器系病は全く同位を呈してゐるが、その比率を見るに、第一位は内地一二三%(内地六八四・四%、本島五六二・九%)の高率であるが、第二位は本島六七%(本島三四八・四%、内地一八一・六%)

高率を示してゐる。第三位は本島の地理的に多き脾腫を包含する全身病なれども、内地は呼吸器病(三四・一%)である。第四位は内、崙孰れも皮膚及皮下組織病であつて其の比率(本島二三・四%、内地二二・九%)も亦伯仲の間である。又流行病、地方病及び傳染病は内、崙孰れも第六位であつて其の比率も劣るものである。尚ほ本島に在りては極めて少数なる畸形及び泌尿生殖器病が内地に於ては相当多数を認むるこゝである。

更に體性別に考察して見るに、既記の如く本島にては男を多数とするに反し、内地農村にては女を多数とし、男女交互に約同率を示してゐる、即ち各男女總數を一〇〇〇とするときは本島男五〇八・五に對し内地女は五〇五・九、又本島女四九一・五に對し内地男は四九四・一の割合である。而して本島にては全身病及び神経感覺器病は男を多数とするに反し、内地に在りては女を多数とし、又血行器病は本島の女を多数となすに反し、内地は男を高率にしてゐる。男女別に依る罹患率は各種疾患殆ど平衡状態であるか、内地の外傷、本島の皮膚皮下組織病は兩地とも男は適に女を凌ぎ著差を示してゐる。

本島對内地の保健調査の成績を表章するに次表の如くである。

内地に於ける保健調査との比較

疾病	内地保健調査						本調査(千分比)		
	實 數		千 分 比		總數	男	女		
總數	男	女	總數	男				女	
總數	151,033	74,619	76,414	1,000.0	494.1	505.9	1,000.0	508.5	491.5
流行病、地方病及傳染病	2,200	1,158	1,042	14.6	7.7	6.9	15.7	8.9	7.0
全身病	2,172	977	1,195	14.4	6.5	7.9	130.2	68.2	61.9
神経系及感覺器病	27,435	12,961	14,474	181.6	85.8	95.8	248.4	125.2	123.1
血行器病	2,865	1,458	1,407	19.0	9.7	9.3	2.9	1.2	1.7
呼吸器病	5,145	2,680	2,465	34.1	17.7	16.4	16.2	8.7	7.5
消化器病	103,373	51,382	51,991	684.4	340.2	344.2	561.9	277.7	284.1
泌尿、生殖器病	931	265	666	6.2	1.8	4.4	0.3	0.1	0.2
皮膚及皮下組織病	3,462	1,941	1,521	22.9	12.8	10.1	23.4	17.9	5.5
骨及運動器病	770	404	366	5.1	2.7	2.4	0.4	0.3	0.1
畸形	1,930	962	968	12.8	6.4	6.4	0.2	0.2	0.1
幼児	...	...	...	...	...	...	0.0	0.0	0.0
老年	...	...	...	...	...	...	0.2	0.0	0.2
外傷	334	229	105	2.2	1.5	0.7	0.2	0.1	0.1
不明の診断	416	202	214	2.7	1.3	1.4	...	...	...

第五 氣温と疾病

先づ本島の緯度を一瞥するに、北回歸線は嘉義市の郊外水上庄を通してゐるから、嘉



義以南は熱帯圏であり、その以北は温帯圏中の亞熱帯に屬する譯である。従つて本島の氣象關係は北南兩部によつて差異あることは免れない。本島の全年平均氣温の最高極限は臺中の三九・三度(攝氏度、各觀測所開設以降昭和八年に至る平均値にして以下氣象に關するもの皆之に同じ)より澎湖(馬公街)の三三・九度の間であるが、一般平均氣温は夫よりはずつと低い、即ち恒春の二四・四度から基隆の二一・六度の間にあつて、内地の東京(一三・九度)、大阪(一五・一度)又は長崎(一五・六度)なほよりは勿論高温であるが、那覇(二二度)に比するときは大差が認められない。之を外に或は列國と比較して見るに、パラオ(二六・九度、本邦委任統治地)、マニラ(二六・六度、比律賓)、カルカッタ(二六・五度、印度)等よりも恒春、高雄(二四度)は二度低く、臺東又は臺南はホノルル(二三・八度、布哇)と軒輊なく、澎湖はリオデジャネロ(二二・六度、ブラジル)と相伯仲してゐる。花蓮港(二二・四度)は廣東(二二・五度、中華民國)より僅かに低く、那覇よりは〇・四度高い、而して臺北(二一・七度)、基隆(二一・六度)の兩地はカイロ(二一・二度、エジプト)と大差がない。

衛生上より見て望ましき好適温度は凡そ二〇度であらうが、冬季の北部(臺北、基隆)地方の平均温度は一五度から一四度臺まで下降して寒む過ぎる。又夏季高雄又は臺北にては二八度臺に騰つて暑つ過ぎるのである。しかし沿海氣候にして降雨が多く、海風も加はり、又随分人畜に被害を與ふるこゝある季節風もあつて、風の調節による天恵もないのではない。

人體に影響を與ふるものは氣温の外に湿度である、本島の全年平均湿度は八〇%(空氣中に水蒸氣飽和して最濕潤したるものを一〇〇として算出す)であつて可なり高いのである。而して衛生上歓迎すべき湿度は三〇—六〇%と謂はれて居るが、前述のやうに雨風の調節があるから、必ずしも瘴烟の地とは謂へない、見方によつては高砂の蓬萊島である。

疾患は氣象の影響によるは説明するまでもなく、春は陽氣にして爽快を感じ、秋は天高馬肥で消化機能の旺盛なる季節であるが、五月雨の候と三伏の季には陰鬱と焦燥を感じずにはをられぬ。如上のやうに氣象の人身に及ぼす影響を想倒するの時、病患に對しては一層甚大なるこゝが窺知される。

今、最近昭和七年乃至同九年に於ける官立醫院治療延患者を觀るに、三箇年平均二、五、五、二、三〇、八人にして、之を各醫院別に分つときは臺北醫院(以下單に臺北と稱し、醫院を省く、以下皆同じ)は七十二萬にて全數の四分一弱の大多數を占め、臺南(三十三萬)は臺北の約半にて之に並ぎ、以下臺中(二十七萬)、嘉義(二十七萬)、高雄(二十六萬)の順位をなし、澎湖は約五萬を擁するに過ぎざる最少である。

次に氣象と疾病の相關々係を月別疾病數に依つて考察して見たい、而して月には大小の別と、二月の二十八、九日との四態あつて各月に於ける疾病數は正確の意義から謂

ふと、眞の多寡を示したものでない、そこで一箇年間を通じて治療した總患を一年三百六十五日で除した、其の商こそ絶對の一日平均治療患者であつて、之は標準疾病數と謂ふべきものである。さて、標準疾病數を三十一乗すれば大の月、又二十八乗は平年二月の算式となる。かくして得たる標準疾病數を各月に於ける延患者とを比照し、その過不足によつて氣候が疾病に影響ある度合を分量的に考察せむとするものである。

今、官立醫院を一團として觀察するに、罹病者の最高を占むるは八月にして標準疾病數(六、九九二人)の約十日分の超過(六、六、四、二八人)に當り、第二位に多數なるは七月(四、五、一、六三人)の超過にして標準數の六日半分丈け多數を示せり、其の他標準數を超過する月は順次に六月(一、九、八、五、四四人)超過、九月(一、七、三、六、九人)超過、五月(一、〇、九、一、〇人)超過等である。之に反し標準疾病數に對し著差を認むる月、即ち罹患者の最低なるは一月にして、其の差減五、八、八、九、六人を示し標準數の八日半分に該つて、殆ど罹患者の八月に匹敵する數値を呈してゐる。次に座するは十二月の二萬八千、二月の二萬五千、四月の約二萬、三月の一萬四千、十一月の八千、十月の五千の順位をなしてゐる。之を要するに本島に於ける疾病の消長は晩春より初秋(五月乃至九月)に多く、中秋より孟春(一月乃至四月)及び十月乃至十二月)に寡く、就中八月を最多とし、一月を最少にしてゐる。

如上を氣象特に氣温との關係を見るに、全く罹病率の多寡と吻合してゐるこゝが明かる、但し一及び二位のみは交互に轉倒してゐる。即ち臺北、基隆、臺中、花蓮港、臺南、臺東、恒春及び澎湖の八觀測所に於ける氣温は孰れも七月を最高とし、第二位を八月にしてゐる、而し恒春のみは八月を三位にして、六月が二位である。三位は恒春の二位の關係を除外するときは總て六月であつて、第四位及第五位は八觀測所期せずして各々九月、五月の順位をなしてゐる。之を詳説するに疾病の標準數より高きは八、七、六、九、五の五箇月で高温の順位は七、八、六、九、五の各月となつて最高の一、二位が交互に相異してゐる譯である、これは人體は最高温直後に反映して罹患者のものでなく、一應高温に抵抗する生活力ありて、高温の翌月に醫門を訪ふもの多きに因るものならん乎、或は最高温の期(月)に罹病するに至るも暫く家庭療法等の姑息手段を取りて月餘の遷延を見る結果、高温度二位の月に醫療を請ふもの多きに依るものならん哉。更に罹病率の低き月と、氣温の低き月との比照を試みて見やう、罹病率の一番低きは一月であるこゝは既記の通りであるが、温度にあつては二月であつて、これ又多率の歸嚮と同じく一箇月の差が出で来る。この事實も觀察眼を轉じて見るに次のやうな事由もある様だ、第一正月は病患者も微起を擧げて醫療を遠除き、又は入院治療者も自宅に歸つて醫藥を服ふと謂ふ民族心理から出發してゐるため。第二は氣温から見ると一月と二月の温差は恒春にありては兩月俱に二〇・四度で同温、臺南と臺東は〇・一度の差、臺中と花蓮港は〇・二度の差、臺北と基隆は〇・五度の差、殘る澎湖は温差大と謂ふも〇・七度に過ぎないのである。

かく一二の兩月各日間の趨勢を比較するときは交互に高低ありて逕庭なきものとも謂へる、其の結果より再考するときは高温の場合と同じく低温には疾病寡しと結論するも悞なしと謂はん乎。而して罹病の少数なる順位は一、十二、二、四、三、十一及び十月なるに對し、低温順位は二、一月並いで臺北、基隆は三、十二月なるも其の他の地方にありては十二、三月と相交錯し、第五位以下は各地を通じて十一、四、十月であつて、大勢は罹病多率の場合と同軌なりと謂へる。

各官立醫院別にその歸趨を窺ふときは次の如くである。

1 臺北醫院 臺北の氣温は既述の全島平均値と全く同型にして、疾病多寡の順位も氣温に従ひ七月を最多、八月を次位とし、全島平均値よりも明かに疾病は氣温に追従することを裏書きしたものである、第三、四位は臺北にては九月、六月なるに反し、平均値は六月、九月と轉換するの外、其の他の各月は平均値と同型である、尤も臺北の氣温は六月二六・六度、九月二六・二度にして、兩月間殆ど温差なき影響に依るものならん。

2 基隆醫院 氣温は三月十位、十二月九位なるに對し、平均値は交互に相反する外、其の他の各月は平均値と同型である、疾病關係も一、二位は臺北と同じく却つて氣温に合致してゐる。一、三、六の三箇月は平均値と同位、其の他の各月は一、二位の少差に過ぎない。

3 臺中醫院 臺北と同じく氣温の順位は平均値と同型を呈してゐる。而して罹病率の一、二、六、七及び十二位は平均値と同型で、第三位は臺北と、第四位は基隆と同型、其の他の五箇月は一乃至三位の差異が認められた。

4 臺南醫院 氣温は臺北、臺中と全く同軌の順位を保ち、疾患順位は罹病率の低き十二月の十位、二月の十一位が各々平均値と轉換する外、其の他の各月は總て平均値に合致した。而して第十位は高雄、花蓮港の兩地と、第十一位は基隆、臺中兩地と鬚髯たり。

5 高雄醫院 氣温の平均値と異なるは一月、二月、五月、九月の四箇月とし、罹病率は一月、七月、八月及び十一月の四箇月は平均値と同位をなし、五月、六月、九月の三箇月は臺中と同位、十二月は臺南と同位、二月は東部地方の臺東、花蓮港兩地と同位をなしてゐる。

6 臺東醫院 氣温は平均値と同軌であるか、罹病率は一、二位の最多月か平均値と同じであるのみ、其の他は高雄と相似のもの三箇月(二、六、九月)、十一月は基隆と同位を示してゐる。最低率は多く二月前後なるに對して臺東は四月(二三・二度)とし、又十二月の第七位にあるは各地との著しき差異と謂はざるを得ない、しかし臺東十二月の平均氣温は一九・九度にして基隆の四月(二〇・一度)、花蓮港の三月(一九・〇度)、臺南の三月(一九・六度)に伯仲してゐる。

7 花蓮港醫院 氣温の順位は全く全島平均値と合致し、罹病率多寡の順位も僅かに二、四、十二月の三箇月のみ吻合せざるのみで、大體に於て花蓮港は本島の標準地方と

稱することが出来る。

8 澎湖醫院 空氣の温度は平均値と同型を呈してゐるが疾病順位は四月の第九位を除外するも、他の十一箇月は全然符合してゐない。而して澎湖に於ける疾病最多は陽春三月なるは寧ろ奇なる現象と謂はざるべからず、三月の本地に於ける平均温度は一八・二度にして同地十二月と同温(十二月の罹病率順位末位、同温度にて多寡兩端を占むるときは一層注目し値する)雨量は六一・耗にて全島的に觀察するときは過少である、平均氣压は七六・二五耗にして各地と軒輊なく、湿度も亦八四%にて臺北の三月と同位を示す程度なり。されば三月の疾病多率なるは何れに基因するのであらう。由來澎湖は初冬より孟春に亘りて季節風期である、従つて平均風速毎秒七・二米を示し暴風は月の半に達する十五日を算するは、尠くとも疾病夥多の一因として見逃し得ざる處である。第二位に疾患多率なるは九月にして、これ又他州に見ず、只近邇のものを求めれば九月に三位を示すは臺北、臺中、高雄の三州と臺東廳とがある。第三位は二月に飛んでゐることも季節風の影響らしい、二月は各地にありては低率に屬するものである、即ち平均値及び臺北は十位。高雄、臺東、花蓮港は孰れも九位、其の他の各地は總て十一位にある情勢である。第四、五位は各々七、八月で各地とも第一、二位を示すべき月である。以上のやうに澎湖は犬牙錯綜して、其の歸趨を知らざる状態である。

終りに昭和七年乃至同九年官立醫院に於ける治療延患者實數と、同上標準疾病數及び平均氣温(高温順)を表章するときは、次のやうになる。

自昭和七年官立醫院治療延患者  
至同九年

月及年	官立醫院													
	總數	臺北	基隆	宜蘭	新竹	臺中	嘉義	臺南	高雄	屏東	臺東	花蓮港	澎湖	
總數	平均	2,552,308	720,973	132,140	103,845	144,201	274,618	266,585	325,676	258,980	112,477	50,160	114,275	48,378
	7年	2,355,222	727,482	128,789	99,258	154,758	236,427	233,650	285,078	144,458	129,595	47,162	117,389	51,176
	8年	2,574,671	714,067	139,854	105,144	151,741	286,763	287,656	293,533	287,131	101,078	53,537	102,652	51,515
	9年	2,727,040	721,371	127,781	107,136	126,103	300,660	278,452	398,419	345,352	106,758	49,785	122,781	42,442
1月	平均	157,875	43,332	8,872	6,625	8,737	16,685	16,381	18,421	15,811	7,796	3,503	7,617	4,095
	7年	143,206	41,826	8,025	5,811	9,951	12,968	13,207	16,124	11,491	7,889	2,898	7,785	5,233
	8年	157,715	40,536	9,605	7,425	8,462	17,136	18,979	16,366	14,896	8,285	3,891	8,215	3,919
2月	平均	170,373	46,547	8,739	7,098	9,522	17,714	18,024	20,572	18,634	8,138	3,201	8,118	4,066
	7年	158,498	49,835	7,288	6,600	9,768	14,536	14,384	19,244	14,192	8,752	2,350	6,794	4,755
	8年	170,491	42,655	9,705	7,728	10,893	18,162	20,860	18,596	17,120	8,166	3,937	8,172	4,497
8月	平均	202,412	57,160	10,679	8,264	11,311	21,099	20,961	24,543	21,377	9,632	3,497	9,113	4,776
	7年	181,120	58,636	8,874	6,991	11,927	17,148	14,909	20,174	14,806	9,554	2,666	8,988	6,447
	8年	200,572	53,141	12,339	8,651	12,321	21,193	24,320	21,929	18,785	10,007	4,335	8,657	4,894
9年	平均	225,540	59,702	10,824	9,149	9,684	24,955	23,655	31,526	30,541	9,334	3,491	9,693	2,986
	7年	181,120	58,636	8,874	6,991	11,927	17,148	14,909	20,174	14,806	9,554	2,666	8,988	6,447
	8年	200,572	53,141	12,339	8,651	12,321	21,193	24,320	21,929	18,785	10,007	4,335	8,657	4,894

月及年	官 立 醫 院													
	總數	臺北	基隆	宜蘭	新竹	臺中	嘉義	臺南	高雄	屏東	臺東	花蓮港	澎湖	
4月	平均	189,932	55,169	9,717	7,100	10,531	19,986	20,153	23,184	20,414	9,062	2,838	8,026	3,752
	74年	177,711	56,995	8,783	6,765	12,145	17,928	15,315	19,763	13,282	11,309	2,332	8,299	4,795
	84年	184,812	50,296	11,123	7,684	10,827	19,795	23,550	20,371	18,869	7,770	2,825	8,073	3,629
	94年	207,275	58,215	9,245	6,853	8,621	22,234	21,593	29,420	29,091	8,107	3,357	7,707	2,832
5月	平均	227,681	65,458	11,393	8,779	12,846	24,945	24,950	28,630	23,174	9,743	3,894	9,722	4,147
	74年	206,606	66,578	10,813	7,193	13,045	21,952	18,384	24,200	13,375	13,800	2,946	10,099	4,221
	84年	230,027	64,753	12,750	9,399	13,558	24,412	28,409	28,145	23,470	7,983	3,729	9,625	3,794
	94年	246,416	65,014	10,616	9,746	11,937	28,471	28,058	33,546	32,678	7,446	5,008	9,441	4,425
6月	平均	229,630	63,877	12,291	9,608	14,418	23,444	27,410	29,483	21,705	9,268	4,038	10,363	3,725
	74年	205,867	63,001	13,613	9,442	14,768	20,817	22,384	24,127	9,580	11,038	3,347	9,574	4,176
	84年	225,684	64,430	13,105	9,056	15,776	25,027	27,875	25,715	20,378	7,805	4,292	9,234	2,991
	94年	257,342	64,201	10,156	10,326	12,710	24,487	31,972	38,607	35,157	8,960	4,476	12,283	4,007
7月	平均	261,934	76,205	14,074	10,749	15,844	26,587	26,587	35,194	25,014	10,221	5,529	11,718	4,212
	74年	244,871	74,353	15,070	11,843	16,253	23,813	27,369	34,273	11,784	11,778	3,948	10,555	3,812
	84年	267,506	76,526	15,788	10,548	17,709	31,314	26,639	27,066	28,841	9,950	7,427	10,818	4,880
	94年	273,426	77,736	11,343	9,856	13,571	24,634	25,754	44,244	34,416	8,935	5,211	13,782	3,944
8月	平均	283,199	80,780	13,835	11,281	16,857	30,576	26,699	40,951	29,210	10,011	6,292	12,504	4,193
	74年	250,625	80,965	12,832	11,117	17,967	25,527	22,705	35,865	10,674	10,287	7,108	11,748	3,830
	84年	296,798	81,627	13,714	12,274	18,546	32,839	28,612	37,075	40,001	10,224	6,744	10,532	4,610
	94年	302,175	79,748	14,959	10,451	14,088	33,361	28,781	49,913	36,956	9,523	5,025	15,231	4,139
9月	平均	227,145	64,189	11,007	9,550	12,682	25,785	23,710	28,967	22,508	9,528	4,945	9,707	4,567
	74年	204,919	66,323	11,320	8,491	14,244	21,235	21,746	24,601	8,836	9,699	4,926	9,512	3,986
	84年	237,831	62,845	10,918	10,273	13,281	29,792	26,144	28,704	29,221	9,123	4,676	7,748	5,106
	94年	238,687	63,399	10,784	9,887	10,520	26,327	23,240	33,596	29,468	9,763	5,233	11,861	4,609
10月	平均	211,683	60,601	10,885	8,495	11,961	24,154	21,279	26,759	20,035	9,113	4,591	9,687	4,123
	74年	198,235	61,913	11,827	8,142	13,384	20,447	18,141	24,135	10,383	10,507	4,899	11,155	3,302
	84年	210,277	60,080	10,046	7,936	11,866	25,061	22,972	23,268	24,712	7,629	4,491	7,394	4,822
	94年	226,535	59,811	10,783	9,407	10,632	26,954	22,724	32,873	25,010	9,203	4,382	10,512	4,244
11月	平均	201,340	56,531	10,532	7,903	10,568	22,430	20,196	25,419	20,664	10,986	3,860	8,932	3,319
	74年	200,850	57,456	10,858	8,355	11,841	20,990	22,346	22,380	12,438	15,078	4,619	11,494	2,995
	84年	199,879	59,815	10,977	6,781	10,170	21,839	18,815	24,066	25,186	7,002	3,557	7,330	4,341
	94年	203,297	52,322	9,762	8,574	9,693	24,462	19,429	29,812	24,367	10,879	3,405	7,971	2,621
12月	平均	189,104	51,124	10,116	8,393	8,914	21,213	20,235	23,553	20,434	8,979	3,972	8,768	3,403
	74年	182,712	49,601	9,466	8,508	9,465	19,066	22,760	20,192	13,617	9,904	5,123	11,386	3,624
	84年	193,079	57,363	9,784	7,389	8,332	20,193	20,481	22,232	25,652	7,134	3,633	6,854	4,032
	94年	191,519	46,408	11,099	9,284	8,946	24,379	17,463	28,234	22,032	9,898	3,159	8,063	2,554

自昭和七年官立醫院標準疾病數

種別	官 立 醫 院												
	總數	臺北	基隆	宜蘭	新竹	臺中	嘉義	臺南	高雄	屏東	臺東	花蓮港	澎湖
標準疾病數	6,992	1,975	362	285	395	752	730	892	710	308	137	313	133

種 別	官 立 醫 院													
	總數	臺北	基隆	宜蘭	新竹	臺中	嘉義	臺南	高雄	屏東	臺東	花蓮港	澎湖	
1月	延患者	157,875	43,332	8,872	6,625	8,737	16,685	16,381	18,421	15,811	7,796	3,503	7,617	4,095
	過少	(-) 58,896	(-) 17,901	(-) 2,350	(-) 2,195	(-) 3,510	(-) 6,639	(-) 6,260	(-) 9,239	(-) 6,185	(-) 1,757	(-) 757	(-) 2,089	(-) 14
2月	延患者	170,373	46,547	8,739	7,098	9,522	17,714	18,024	20,572	18,634	8,138	3,201	8,118	4,066
	過少	(-) 25,433	(-) 8,762	(-) 1,407	(-) 867	(-) 1,541	(-) 3,352	(-) 2,429	(-) 4,412	(-) 1,231	(-) 491	(-) 647	(-) 648	(+) 354
3月	延患者	202,412	57,160	10,679	8,264	11,311	21,099	20,961	24,543	21,377	9,632	3,497	9,113	4,776
	過少	(-) 14,359	(-) 4,073	(-) 543	(-) 556	(-) 936	(-) 2,225	(-) 1,680	(-) 3,117	(-) 619	(+) 79	(-) 763	(-) 593	(+) 667
4月	延患者	189,932	55,169	9,717	7,100	10,531	19,986	20,153	23,184	20,414	9,062	2,838	8,026	3,752
	過少	(-) 19,844	(-) 4,089	(-) 1,143	(-) 1,435	(-) 1,321	(-) 2,585	(-) 1,758	(-) 3,584	(-) 872	(-) 182	(-) 1,285	(-) 1,366	(-) 224
5月	延患者	227,681	65,458	11,393	8,779	12,846	24,945	24,950	28,630	23,174	9,743	3,894	9,722	4,147
	過少	(+) 10,910	(+) 4,225	(+) 171	(-) 41	(+) 599	(+) 1,621	(+) 2,309	(+) 970	(+) 1,178	(+) 190	(-) 366	(+) 16	(+) 38
6月	延患者	229,630	63,877	12,291	9,608	14,418	23,444	27,410	29,483	21,705	9,268	4,038	10,363	3,725
	過少	(+) 19,854	(+) 4,619	(+) 1,431	(+) 1,073	(+) 2,566	(+) 873	(+) 5,499	(+) 2,715	(+) 419	(+) 24	(-) 85	(+) 971	(-) 251
7月	延患者	261,934	76,205	14,074	10,749	15,844	26,587	26,587	35,194	25,014	10,221	5,529	11,718	4,212
	過少	(+) 45,163	(+) 14,972	(+) 2,852	(+) 1,929	(+) 3,597	(+) 3,263	(+) 3,946	(+) 7,534	(+) 3,018	(+) 668	(+) 1,269	(+) 2,012	(+) 103
8月	延患者	283,199	80,780	13,835	11,281	16,857	30,576	26,699	40,951	29,210	10,011	6,292	12,504	4,193
	過少	(+) 66,428	(+) 19,547	(+) 2,613	(+) 2,461	(+) 4,620	(+) 7,252	(+) 4,058	(+) 13,291	(+) 7,214	(+) 458	(+) 2,032	(+) 2,798	(+) 84
9月	延患者	227,145	64,189	11,007	9,550	12,682	25,785	23,710	28,967	22,508	9,528	4,945	9,707	4,567
	過少	(+) 17,369	(+) 4,931	(+) 147	(+) 1,015	(+) 830	(+) 3,214	(+) 1,799	(+) 2,199	(+) 1,222	(+) 284	(+) 822	(+) 315	(+) 591
10月	延患者	211,683	60,601	10,885	8,495	11,961	24,154	21,279	26,759	20,035	9,113	4,591	9,687	4,123
	過少	(-) 5,088	(-) 632	(-) 337	(-) 325	(-) 286	(+) 830	(-) 1,362	(-) 901	(-) 1,961	(-) 440	(+) 331	(-) 19	(+) 14
11月	延患者	201,340	56,531	10,532	7,903	10,568	22,430	20,196	25,419	20,664	10,986	3,860	8,932	3,319
	過少	(-) 8,436	(-) 2,727	(-) 328	(-) 632	(-) 1,284	(-) 141	(-) 1,715	(-) 1,349	(-) 622	(+) 1,742	(-) 263	(-) 460	(-) 657
12月	延患者	189,104	51,124	10,116	8,393	8,914	21,213	20,235	23,553	20,434	8,979	3,972	8,768	3,403
	過少	(-) 27,667	(-) 10,109	(-) 1,106	(-) 427	(-) 3,333	(-) 2,111	(-) 2,406	(-) 4,107	(-) 1,562	(-) 574	(-) 288	(-) 938	(-) 706

平均氣溫(高濕順)

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9	
	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度	地名	溫度
全年	恒春	24.4	高雄	24.0	臺東	23.4	臺南	23.1	澎湖	22.6	花蓮港	22.4	臺中	22.1	臺北	21.7	基隆	21.6
1月	同	20.4	臺東	19.0	高雄	17.8	花蓮港	17.7	臺南	17.0	澎湖	16.3	同	15.7	基隆	15.5	臺北	15.3
2月	同	20.4	同	18.9	同	18.3	同	17.5	同	16.9	同	15.6	同	15.5	同	15.0	同	14.8
3月	同	22.2	同	20.7	同	20.2	臺南	19.6	花蓮港	19.1	同	18.2	同	18.1	臺北	16.9	基隆	16.6
4月	高雄	24.8	恒春	24.6	臺南	23.3	臺東	23.2	澎湖	22.0	臺中	22.0	花蓮港	21.3	同	20.7	同	20

### 第六 年齢と疾病

乳幼児級に死亡率の高いことは、死亡統計を俟たずして明なる事實である。即ち發育の道程にあつて身體の充實を見ず従つて生活力の庭弱であるため内因外因の微細なる缺陷も直に大影響を及ぼすからである。乳児級でも生後餘日なき者ほき高率なるはその所である。其の反面觀より乳児級死亡高率には、死の因由たる罹患率の高きこゝも亦當然の歸結である。

今保健調査に依る被檢者二三八六九一人に對する疾病數三七〇、九〇八を五歳級に區分し、各年齢級検査人員の一人當り罹病割合を算出して見るに、五歳乃至九歳間が最も高潮期である。生後四歳迄は最高潮期であるべきに拘らず、一人當り罹病率は總平均(一五五)より低く一二八を示すは、本調査にありては死の轉歸を見たる後の生存者に限られたるため、比較的low率を現したに過ぎない。五一九歳級に亞くは一人當り一六六を示す一〇一—一四歳であつて、五〇—五九歳の十年間は孰れも一人當り一六四を示して多數である。之に反して罹患低率なるは二〇—三九歳の二十年階級にして、一人當り一五二乃至一五七の間である。尙七〇歳以上の老年級になるに遞次其の比率を下けてゐる、これは延命長壽を保つものは多く健康であるからである。この關係を曲線で示すに生後二十歳未滿迄高く、二十歳以上四十歳未滿者は低く、更に逆轉して四十歳以上七十歳未滿者に高く、七十歳以上なるに再び一轉して低率を示し二山二谷を描く譯である。而して疾病對年齢の問題は、一定年齢間に於ける疾病が明るから、之を自警し、従つて豫防も講じ得るのであるから、保健衛生上重要なものである。

更に年齢別疾病を體性より觀察するに、大體四五歳迄は男に多率を示し、四十五歳よりは女を多數にしてゐる。就中多數なるは男に在りては生後二十歳未滿者であるか、女に在りては五十歳以上七十歳未滿者である。之を要するに女は男よりも體位の充實が早期であるため、幼少年級に低率を示すに共に七十歳以上の長壽者が多數に窺はれるのである。

次に年齢別疾病に關する有病數を調査人員に對する比率を體性別に掲出して、詳述を省略することとした。

年齢別疾病

年 齡(歳)	検査人員			有病數			一人當り罹病割合		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
總數	238,691	119,452	119,239	370,908	188,594	182,314	1.55	1.58	1.53
0 — 4	38,200	19,428	18,772	48,947	25,180	23,767	1.28	1.30	1.27
5 — 9	31,544	15,982	15,562	52,997	27,609	25,388	1.68	1.73	1.63

年 齡(歳)	検査人員			有病數			一人當り罹病割合		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
10 — 14	27,852	14,104	13,748	46,190	24,045	22,145	1.66	1.70	1.61
15 — 19	23,484	11,744	11,740	37,345	19,429	17,916	1.59	1.65	1.53
20 — 24	20,711	10,438	10,273	31,398	16,277	15,121	1.52	1.56	1.47
25 — 29	17,416	8,853	8,563	26,870	13,848	13,022	1.54	1.56	1.52
30 — 34	15,506	8,099	7,407	24,252	12,824	11,428	1.56	1.58	1.54
35 — 39	13,850	7,196	6,654	21,790	11,398	10,392	1.57	1.58	1.56
40 — 44	12,668	6,476	6,192	20,507	10,534	9,973	1.62	1.63	1.61
45 — 49	11,795	5,922	5,873	18,992	9,489	9,503	1.61	1.60	1.62
50 — 54	9,089	4,315	4,774	14,942	7,005	7,937	1.64	1.62	1.66
55 — 59	6,544	2,872	3,672	10,730	4,706	6,024	1.64	1.64	1.64
60 — 64	4,436	1,951	2,485	7,189	3,128	4,061	1.62	1.60	1.63
65 — 69	2,816	1,096	1,720	4,504	1,659	2,845	1.60	1.51	1.65
70 — 74	1,675	601	1,074	2,583	918	1,665	1.54	1.53	1.55
75 — 79	757	274	483	1,149	398	751	1.52	1.45	1.55
80 — 84	257	75	182	392	109	283	1.53	1.45	1.55
85 — 89	82	24	58	119	36	83	1.45	1.50	1.43
90 —	9	2	7	12	2	10	1.33	1.00	1.43

内地に於ける保健調査の成績を對比して見るに、相當の異同が認められる。幼兒の比較的low率なるに、五一—一四歳級のhigh率なるは本島と同軌であるが、二〇歳以上が追年徐々に高昇して行く現象である。特に三五歳以上は各歳級總て平均値を突破して、六〇—七四歳級の十五年間が最高率を呈するこゝが著明である。而して本調査は各歳を通し内地を凌駕してゐるに、九〇歳以上を除くに、一五一—一九歳級が〇・五一の増差を呈してゐる。大體に於て本島に在りては年齢に依る影響は、比較的微弱である。

内地保健調査との比照を表章するに、次の如し。

内地に於ける保健調査との比較

年 齡(歳)	内地保健調査			本調査	較 差
	検査人員	有病數	一人當り罹病率	一人當り罹病率	(本調査の増差)
總數	132,950	151,033	1.14	1.55	0.41
0 — 4	19,007	15,391	0.81	1.28	0.47
5 — 9	17,753	21,861	0.23	1.68	0.45
10 — 14	15,676	18,575	1.18	1.66	0.48
15 — 19	10,716	11,602	1.08	1.59	0.51
20 — 24	8,834	9,371	1.06	1.52	0.46
25 — 29	8,045	8,874	1.10	1.54	0.44